

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

# ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス



## RENAULT NISSAN MITSUBISHI

ルノー・日産自動車・三菱自動車は世界の自動車業界をリードするアライアンスのひとつです。新たな協力的ビジネスモデルを通して、メンバー各社の強みを生かし、互いの戦略を補完し合うことで、競争力と収益性を高めることを目指していきます。



ジャンドミニク スナー  
ルノーS.A. 取締役会長、  
アライアンス  
オペレーティング ボード議長



ルカ デメオ  
ルノーS.A.S. 取締役会長、  
ルノーS.A. CEO



内田 誠  
日産自動車株式会社  
取締役、代表執行役社長  
兼最高経営責任者



加藤 隆雄  
三菱自動車工業株式会社  
取締役代表執行役社長  
兼 最高経営責任者

## アライアンス オペレーティング ボード

2019年3月に創設されたアライアンス オペレーティング ボードは、アライアンス内のガバナンス、マネジメントおよび戦略的方向性を監督する唯一の機関として、効果的かつ効率的な意思決定を確実なものにします。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

## 競争力と収益性を高めるビジネスモデル

長年にわたる協力関係を築いてきたアライアンスは、2020年1月、次のステップに進むことを発表し、新しい協力的ビジネスモデルを開始しました。これは、メンバー各社が持つ、ある領域でのリーダー的地位や地理的な強みを他のメンバー各社のビジネス発展に活用することでアライアンスの利点を拡大させるものです。

独自の強み、企業文化、そして歴史を持つ3社は、各社のアセットと遂行能力を最大限に引き出すことのできるビジネスモデルを通して協力し、相互の継続的な発展に尽くすことに同意しています。

新たなビジネスモデルの中で、アライアンスは次の取り組みを遂行しています。

- ・商品および技術開発の効率性向上のため「リーダーとフォロワー」という枠組みを採用
- ・各社はそれぞれの強みを持つ特定の地域においてレファレンスの役割を果たし、他のメンバー各社の競争力を高めるためのサポートを行う
- ・商品、技術、そして市場において、業界トップレベルのパフォーマンスのベンチマークを実施

「リーダーとフォロワー」の枠組みの目的は、アライアンス各社間で標準化戦略を拡大することにより、投資利益率を高めることにあります。プラット

フォーム、パワートレイン、技術への共同投資は、すべての商品セグメント、技術、地域にまで及び、各社で負担する固定費の共有範囲を最大化するとともに、既存のアセットを活用することができます。昨年発表したクロスオーバーEV「日産アリア」には、EV専用のアライアンス共同開発プラットフォームであるCMF-EVが日産車で初めて採用されています。そして、このモジュール化されたプラットフォームは、さまざまなセグメントに対応できるよう設計されています。同時に、特定の地域にレファレンス会社を指定し、その会社が持つ強みを生かし、伸ばすことで、アライアンス全体の競争力の強化を目指します。中国・北米・日本は日産が、欧州・ロシア・南米・北アフリカについてはルノーが、そしてASEAN・オセアニアについては三菱自動車レファレンスとなります。

このように、アライアンスの戦略的な取り組みは、メンバー各社の持つ専門性を最大限に発揮させることを通して、各社の競争力と持続的な収益性および社会と環境に対して果たすべき責任の強化につながります。

### アライアンスの新ビジネスモデル

各社の競争力と収益性の向上へ

車両におけるリーダーとフォロワー	技術におけるリーダーとフォロワー	レファレンス地域
		
アライアンス共同購買のさらなる効率化		